

恵那市教育研究所だより

えな



「おいしく五平もち」
大井第二小学校 5年 繁穂 祐馬

『みんなで子ども達を育てていく』



東濃地方、特に東部の恵那市は若い先生が多く、その先生方の力を借りしながら子ども達の教育を担っています。人は誰しも若い時があり、その時その時に、また赴任した地域で学び、教員としての人となりや技術を習得していくと考えます。

私が初任3年間をお世話になったのは、飛騨地方でした。まだ交通の便も悪く、トンネルもできておらず、（もちろん高速道路もできていませんでした。）自宅から、4時間かかるて赴任しました。印象に残っていることは、教員住宅の脇に高々と積まれた残雪・冬になると毎日1時間の雪かきをして入る校舎・夏に地域の方々と一緒に行った環境整備作業とその後の絶品「鮎の塩焼き」です。初めて担任した3年生の児童。今でも顔が思い浮かびます。その3年間必死で教員の仕事をしましたが、その時の児童の目にはそれがどう映ったのでしょうか。その後、東濃地方へ戻り10年ほどたったある日、その初任者の時に担任した2人が私の自宅を訪ねてきました。何と結婚報告でした。飛騨の地元に残り、仕事を続け家庭をもった2人でした。意外な2人に驚きながら、祝福をしました。

なぜ私を訪ねてくれたのだろう、自分は何を子ども達にしてあげることができただろうか、と振り返りました。思い出せるのは、とにかく毎日が真剣勝負。授業のこと、生徒指導のこと、学級づくりのこと…。こんなことしかありません。結婚したこの2人は、きっとたくさんの方々に指導を受けて社会人として育ってきたことでしょう。今はお子さんもあり、2人で頑張っています。

その当時の私は、そんな中でその学校の先生方にたくさん支えていただきました。誰の研究授業かと思う

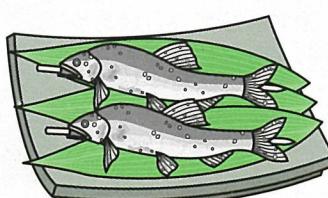
恵那市小中校長会 会長 石山 文香

ほどの授業検討をしてくださったり、「完璧をねらわないで。」と声をかけてくださったり。また、地域の方や保護者の温かい言葉での支えがありました。教員として育ててもらった3年間でした。

今、私の学校にもたくさんの若い先生方がいます。私は今の立場で若い先生方を指導し、十分支えることができているのか。また、学校として支えられているか、と振り返ることができます。

いつの時代も教育に従事する先生方は先を見通し、方向性をもって努力しています。そんな中で、「働き方改革」「GIGAスクール」と時代の動きに沿って指導にあたっています。若い先生もベテランと言われる先生も、今日の前にいる子ども達の現在の教育の充実・未来への方向性をもって、懸命に努力していこうとする姿が大切ではないでしょうか。それは、忙殺されるということではなく、ある程度の「心のゆとり」をもつことで最大限力を發揮できると考えます。また、地域の方や保護者の願いも受けながら、『みんなで子ども達を育てていく』ことを大切にしたいものです。教育はつながっています。どこかで途切れてしまってはいけません。

若い先生を育てながら、園・小・中学校、そしてその後の高等学校の教育も含め、お互いの立場や状況を理解し合い、共通した目標『子どもの自立』に向けて力を尽くしていきたいと考えます。





キャリア教育

職場体験学習

恵那西中学校

キャリア教育「やりたいことを仕事にするために」

恵那市の活性化を中心に地域のプロデュースを手掛ける「株式会社ハラカラ」の経営者のお一人で本校卒業生、柄澤一樹さんを講師にお招きして、「やりたいことを仕事にするために」をテーマにPTA親子教育講演会を開催しました。

「よく遊び、よく学べ」を大切にする中で、これまでに経験されたことが今の仕事につながっていることを話してくださいました。「地域のため、社会のために働くことも一つの働き方である」とこと、「将来の夢や目標がずっと変わらないことも強さだし、その時々で変わることも強さです」と、生徒の進路選択を後押ししてくださる言葉を届けてくださいました。

生徒の感想

仕事に対する見方が変わりました。これまで、夢がコロコロ変わってしまうことが心配だったけど「なりたい仕事が変わることもいいこと」という言葉に勇気づけられました。「よく遊び、よく学べ」を大切にして、やりたいことを仕事にできる自分になりたいです。



恵那北中学校

職業体験を終えて（取組内容の概要と生徒の感想）

恵那北中学校2年生は、10月27・28日の2日間、校区の9つの事業所に分かれ、職業体験を行いました。実施は、令和元年度以来3年ぶりとなりました。以下、生徒の感想です。

生徒の感想

- この2日間で、保育士さんたちの仕事についてたくさん学びました。給食時の消毒やアレルギーの子の対応など、私たちが知らない所でもたくさんの仕事があると知りました。（こども園）
- 最初にしっかりとあいさつができました。また、指示されたことをすぐにやることができました。今日はレジ打ちをやったりしてたくさん仕事ができ、とても楽しかったです。（コンビニエンスストア）
- 今日も坂本の家に行き、作業しました。ソーラーパネル40枚を運んだり取り付けたりしました。何事も新しくやることで楽しかったし、「物を作る」ことができておもしろかったです。（建設会社）



恵那東中学校

17の企業が集結！出前職場体験

11月9日(水)、地元の企業17社に恵那東中学校に足を運んでいただき、職業を体験することができました。校外に出かけての職場体験の替わりにと、昨年度からPTAの方が企業に声をかけてください、協賛企業を募ってくださいました。企業の方から、仕事に対する思いを聞いたり、実際に仕事を体験させてもらったりすることで、学校にいながらそれぞれの企業の魅力を体感することができました。飲食業体験では、接客の仕方やおもてなしの心について教えていただきました。マスコミ業体験では、実際にテレビカメラを使って撮影したり、インタビューをしたりしました。

生徒の感想

医療体験

縫合体験では、針が曲がっていてその針をピンセットや自針器という器具を使って縫うので、思った以上に難しく、外科医の先生方は難しい手術をしていると思うと、改めてすごいと感じました。仕事をするうえで働く人たちは、ITが発達しているからこそ、相手のことを思い、寄り添いながら仕事をしていることを学びました。



岩邑中学校

働くことの大変さを実感した職場体験学習

10月18・19日、町内の15の事業所で、職場体験学習を行いました。「地域の方たちから学び、2日間の中でキャリアアップを目指す」という目標で精一杯取り組みました。

生徒の感想

- 一つの部品をつくるのに、たくさんのパーツが必要なことと、機械ではできない作業は、人が丁寧にすばやくやらないといけないことが分かりました。作業を分担することで効率的に製品をつくることができると思った。（部品製造工場）
- 気づいて動くことが大変でした。勉強で困っている子に、どんな言葉をかけようか、どうやって教えようかななど、一人ひとりに合った声のかけ方が難しかったです。（小学校）
- 売り物になるリンゴは、100個に1つくらいと知って驚きました。ブドウ畠だけでもとても広くて、落果拾いや果物を覆っている袋の片付けだけでも、とても大変でした。（農園）



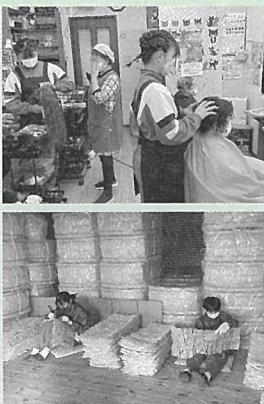
山岡中学校

働くことの充実感と苦労を感じた職場体験

山岡中学校の2年生は、11月9・10日の2日間、町内の11の事業所に分かれて、3年ぶりの職場体験を行いました。生徒の感想を紹介します。

生徒の感想

- ・美容師の方は、どんなに忙しくても笑顔を絶やさず、お客さんのことを一番に考えている姿があり、とても尊敬しました。今回の体験を通して、働くことの喜び、コミュニケーションの大切さを知ることができました。(美容室)
- ・寒天の仕事はほとんど手作業で力のいる仕事もあり、寒天作りの苦労がわかりました。ゴミ取りの作業は集中力がいりましたが、僕たちがいつも食べている寒天はこのような工夫や努力があることが分かりました。(寒天工場)
- ・先生という仕事は、「どうやつたらより分かりやすく教えられるのか」を常に考えて児童をサポートするということを毎日やっていて、大変だと感じました。(小学校)



明智中学校

職業体験「『働く』ことを体感した2日間」

10月20・21日の2日間、地元の16の事業所に協力いただき、3年ぶりに職場体験を実施することができました。2日間の体験で、生徒たちは仕事の大変さ、責任の重さを実感するとともに、挨拶や返事の大切さを学び、仕事のやりがいを感じ取ることができました。

生徒の感想

- ・一つ一つ手作業で作業を行い、ほとんどが立ち作業でとても大変だったけど、みんな一生懸命作業をしていました。普段は何気なく使っている食器やカップなどが一つ一つ手間をかけて手作業で行っていることを知り、カップや食器の使い方が変わりました。(製陶業)
- ・お客さんがいらっしゃったら「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」と聞くと大きな声で言うことが、すごく簡単なことだけど大変でした。将来、自分が働くようになら、お客さんとのコミュニケーションや挨拶、正しい言葉遣いが当たり前になってくるので、今後に生かしていきたいです。(販売業)



串原中学校

串原の方に支えられた職場体験

串原地域内3つの事業所の方に協力していただき、職場体験学習を行いました。生徒は働くことの意義を学ぶと同時に、樂しさや大変さを、体験することができました。また、どの事業所の方も職場体験の意図を十分に理解し、次世代を担う人材としてご指導いただきました。

生徒の感想

- ・普段持たないような重い肉を運びました。体力を使い大変だったけど、職場が一つの家族のように見えました。この雰囲気の中からとてもおいしいハムができるんだと思いました。(食品加工業)
- ・フロントやレストラン施設管理など一つのホテルでも、働いている沢山の人が支え合って成り立っていると知りました。職場体験で学んだ「笑顔で力のある声で挨拶をする。人の気持ちを考えて行動する、積極的にキビキビ行動する。」この3つのことを今後も心掛けていきたいです。(サービス業)
- ・トマトの収穫以外にも袋詰めやラベル貼り等たくさんの作業があってビックリしました。長時間の作業を効率よく楽しく行うところが大切だと思いました。(農業)



上矢作中学校

職業体験「働くことの大変さとやりがい」

10月19日から21日までの3日間、2年生15人が職場体験を行いました。積極的に仕事に取り組みながら、働くことの大変さややりがいを学ぶことができました。

生徒の感想

- ・1歳や2歳の学年だったので、言葉が伝わらなかつたり私が理解できなかつたりして大変でした。でも、3日間を通してその子がどうやつたら寝るのかとか、何が言いたいのかが分かつてきましたからよかったです。笑顔になつたり近づいて手をつないでくれたりしてくれてうれしかったです。(保育園)
- ・大変だったことは朝一番の掃除でした。床、窓などの水拭きや見えないところまで毎日やるのが大変でした。慣れてきたときに、「早くなったね」と言われたときは、本当にうれしかったです。(飲食店)
- ・接客はしたことなかつたので、難しそうでした。でも、ご飯を食べるときに、ご飯を運んできてくれる人や作る人など、色々な立場の人たちがいるから自分たちが自分でやる必要がないのだと気づきました。どんな仕事でも、誰かの役に立っているのだと分かりました。(郵便局)



『えーなお仕事探検隊』

三郷小学校

10月14日(金)に、地元事業所の魅力の発見や働くことの意義への気付きを促し、将来の主体的な進路選択の基盤を作ることを目的に、企業・行政・学校が連携し、小学校5・6年生を対象とした市内企業への体験型企業見学が行われました。初回は、三郷小学校6年生の17名が、事前事業を行ったうえで、地元の「ユニオン機工株式会社」を訪問しました。

「ユニオン機工株式会社」は、ダイカスト素形から部品の完成加工、組付けを請け負う金属製造業界の会社です。※ダイカスト：溶かした非鉄金属の合金を精密な金型に高速・高圧で注入し、瞬時に製品を成型する鋳造技術のこと

児童は、製造された製品の良品・不良品の見分け体験をはじめ、機械加工整備へ鋳造成形品を設置し、鋳造成形品に精密加工を施す工程を体験しました。

より良いものを製造するという責任、地元の人がどのような思いで働いているかを実感できる大変実りのある体験となりました。

私は、仕事を体験してみて、地味な作業だけれども大切だと知りました。なぜなら、一つのミスでお客さんに迷惑をかけてしまうからです。次に私は製品の一つ一つがたくさん工程で、いろいろな機会を使って検査しているので驚きました。すごいと思ったこともあります。それは、不良品ゼロを目指し、失敗の理由を突き止め、協力して解決しているということです。(省略)
工場見学をしていると、ほとんどが機械が作業していたけれど、説明を受けて、どれも責任をもってやっていることが分かりました。これを機会に、いろいろな職業にチャレンジしてみたいと思いました。



生徒の感想

私が心に残つたことは、2つあります。1つ目は体験学習です。不良品の間違探しをしていて、不良品を見つけることが難しいことが分かつたし、たくさんの製品の中で、不良品を見つけることができる人たちは本当にすごいと思いました。次に体験した空気のものれの検査では、使われた製品が実際に車に使われることを知つて責任の重さを感じました。2つ目は、機械の開発です。私は、ユニオン機工は部品を造る会社ということは知っていたけれど、シャトレーゼなど身近な店の機械を造っていると知りました。ユニオン機工の製品が、自分の暮らしが近くにあることが分かり、驚きました。



特集 第44回 東濃地区特別支援教育研究発表会 (小学校)

1 恵那市の研究主題

生きる力を共に高め合う児童の育成

～学びの連続性や柔軟性のある支援体制・支援方法の充実を目指して～

2 期 日／令和4年11月10日(木)

3 会 場／恵那市立大井第二小学校（特別支援学級公開）

恵那市立大井小学校（通級指導教室及び通常学級公開）

4 内 容／恵那市の各2校で、全体会、公開授業を行い、授業研究会と分科会が行われました。

大井第二小学校

「こうしたい」「わかる」「できる」を実現する児童の育成

～一人一人の教育的ニーズに寄り添い、柔軟性のある支援を目指して～

★研究の歩み

- ・児童が、学び方を自己選択、自己決定することで、主体的な学びにつながった。
- ・どの子も夢中になる活動を仕組むことで、互いに教え合ったり、伝え合ったりする協働的な学びにつながった。
- ・ICTを活用することで、学びを深める活動へつながった。

○共有したいこと

- ・共通の導入問題を使うことで、関わり合って、単元のねらいを追究することができる。
- ・実演の繰り返し動画や、欠席者へのZOOM配信でのやり取りなど、一人一人の学びを大切にし、支援を工夫する。
- ・児童の実態に応じて、目当てや学習方法を自己選択、自己決定し、学びを深めることができる。
- ・個の特性を丁寧にとらえることで、児童の実態把握を支援に生かすことができる。
- ・終末の評価活動を工夫することで、学ぶことが楽しいと実感することができる。



大井小学校

できた喜びを実感する算数学習指導の在り方

～個別最適な学びを実現するための手立てを中心として～

★研究の歩み

- ・ICTを活用し、自分の理解度を示すことで、その児童にあった交流をすることができた。
- ・相手意識をもって説明することで、聞いている児童の理解が深まるだけではなく、説明する児童の表現力も高まってきた。
- ・授業の終末で評価問題を解いた後、自身の理解度を確認する活動をすることで、児童自身にとって「できた」という実感を持たせることができた。

○共有したいこと

- ・ICT内に既習事項を保存して、児童が必要な時に必要なものを活用できる環境を整える。
- ・ICT内の共有スペースに「質問コーナー」をつくり、疑問や質問を書けるようにする。
- ・この特性を丁寧に分析し、児童にとって必要な訓練を繰り返し意欲的に行える工夫をする。
- ・「できるようになった」という成長が実感できるように、単位時間の評価を児童に分かりやすい言葉で伝える。
- ・個の自信につながる言葉をたくさん使う。





「こころと体がいきいきと育つことを願って」 ～中野方の自然・体を動かす遊びを通して～

中野方こども園

中野方こども園は、恵那市の北部に位置し、四方を山々に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれています。

たくましい心と体が育つにはどのようなことが大切かを考え、体を動かす遊びや中野方の自然を生かした活動をたくさん取り入れています。また地域の方に見守られながら、故郷を大好きになったり、感謝の気持ちをもったりできるように取り組んでいます。

1. 体を使った遊びを通して（集団遊び）

体を動かすことが大好きな子ども達の姿から意識的に集団遊びを取り入れてきました。思いっきり走ったり、止まったり、タッチしたりする中で、体の使い方や、力加減が身についてきます。また、友達と関わる中で面白さを共感したり、勝ちたい、負けて悔しいという思いを味わったり、時には譲ったり、我慢したりすることで気持ちを切り替える力もついてきます。

春の頃は、簡単なルールの鬼ごっこから始まりましたが、今では「たからとり」という、相手のたからを取りに行ったり、自分のたからを守ったり、また、捕まった仲間を助けに行ったりと、たくさんのことを見に留める必要のある遊びができるようになりました。たくさんの集団遊びを経験する中で、自分たちでルールを考えたり、役割分担を相談したりと、多くの気づきや学び合いの姿が見られるようになりました。



2. 自分の思いを言葉にして伝える活動を通して

自分の思いを伝えたくても、怒ったり泣いたりしてしまったり、強引に思いを通してしまったりと、なかなか言葉で伝えることができない子が多くみられたので、自分の思いを言葉で伝えたり、友達の意見に気付いたりするためにはどのようにしていくとよいかを考え、各クラスでの話し合いの場を『○○（クラス名）会議』と呼んで、『自分の思いや考えを言葉にして伝える』『友達の意見を聞く』という話し合いの場にしました。

まずは、保育者が気持ちを言葉で伝えられない子にじっくり丁寧に意見を聞く形で引き出していき、どんな意見でも考えたことを認めたり、みんなに紹介した



りすることで、考えたこと、思ったことに「間違え」ではなく、「自分の思ったことをみんなに聞いてもらえばいいんだ。」「友達はこんなこと思っているんだ」と、言葉で伝えることの安心感を味わえるようにしました。また、友達の考えを聞いて自分の意見と照らし合わせていくことで、意見を押し通すのではなく、いろいろな意見があること、共感できることなどの経験を積み重ねていけるようにしています。このような取り組みで、遊びの中で自分たちが意見を出し合ってルールを考えいくなどの成長がみられるようになりました。

3. 地域とのつながりを通して（中野方の自然・地域）

地域の方の得意分野や団体の取り組みを園の生活の中に取り入れています。畑の手入れや野菜の栽培方法、盆踊り講習、読み聞かせ、マンドリンの演奏などをしていただきたり、森を借りて、木育体験などをしております。地域の方のおかげで多様な体験ができ、子ども達の豊かな成長につながっています。

そんな地域の方々に感謝の気持ちをもてるように、「手紙」いう形で伝えることにしました。手紙を改めて渡すことにより、子ども達の中に地域の方の存在がしっかりと認識でき、更につながりを感じられるようになったと思います。

これからも子ども達が地域を好きになり、中野方の文化を受け継いでいけるよう、つながりをもっていきたいです。





大学生の頃、灰谷健次郎さんや子安美知子さんの講演会を岐阜で開こうと、高校の恩師とともに奔走しました。直接お話を聞く機会も何度かいただきました。教師になってからは、先輩の先生にお借りした大村はまさんの本をたくさん読みました。この3人の教えと多くの先輩方との出会いによって今の私があります。

- 泥濘にはまつたりヤカーレ、一緒に押してやることではなく、そこから抜け出す方法を、一緒に考え、導いてやることが教員の仕事である。
- 教室には、引き締まった気分を作る工夫をしないといけない。固いのでも怖いのでもないが、きりっと引き締まっている、そういう気分をつくりたい。
- 教師の役割は、温かくも厳しい目をもち、子どもを一人でも生き抜ける人間に鍛え上げることである。そのためには真摯な研究と優れた指導が必要だ。

長島小学校 校長 丸山 真理子

これらが、私の軸になっている言葉です。もうひとつは、

「研究」をしない教師は先生ではない。（略）子どもというは「身の程知らずの伸びたい人」のことだと思うからだ。一歩でも前進したくてたまらないのだ。そして、力をつけたくて、希望に燃えている、その塊が子どもなのである。（略）研究をしていて、勉強の苦しみと喜びをひしひしと日に日に感じていること、そして伸びたい希望が胸にあふれていること。私はこれこそ教師の資格だと思う。

昭和・平成・令和と時代は移り変わっても、子どもをしとねる（大切に・立派に育てて人成る）ことの根幹は変わらないのではないか。

若い先生方には、子どもが好きな先生でいてほしいです。ちゃんと教師であり、ちゃんとその土地に根付いた人であってほしいです。コロナ世代の子どもたちを育てる中で、子どもたち一人一人に、「ぐらつかない軸」をきちんとたせたいと、ますます感じています。



研究所研修の実施報告

令和4年度「恵那市教育実践研究論文」審査結果

※学番順

◆優秀賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
明智小	林 誠悟	日本国憲法と政治選挙を自分でして捉え、よりよい社会の実現に向けて多角的に選択判断する子が育つ小学校社会学習の創造～社会的な見方・考え方を連続的に働かせた個別最適な学び・協働的な学びを通して～	社会科
恵那西中	遠藤 啓太	見通しをもった学級経営ができる若手教員の育成を目指した学年経営～基礎形成期の教員養成に寄与する資質向上期の教員の在り方について～	学年経営
恵那西中	高山 雄匠	主体的に取り組み、確かな技能を身に付ける生徒の育成～小集団での学習を通して、技能を高める学習～	保健体育科
恵那東中	森川 昇平	社会的な見方・考え方を働かせる深い学びを目指して～自分事として社会事象を捉え、単元全体を見通して仲間とともに考えを深める活動を通して～	社会科
明智中	原田 将伍	主体的に学習に向かうことで「動きをとらえる力」を高める生徒の育成～「主体性」と「ボールを持たない時の動き」を意識した3年間のバレーボール実践～	保健体育科

◆優秀賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
中野方小	大橋あげ葉	主体的・対話的で深い学びができる児童の育成～ICTを活用した歯科保健指導を通して～	特別活動
武並小	小板 篤史	児童の感覚の偏りや特性の実態と分析に基づいた指導方法の工夫～特別支援学級における感覚的な困り感のある児童への実践～	特別支援
長島小	水上 照美	筋道立て考える児童の育成～「小数」の学習実践から～	算数科
大井小	中村 日乃	できた喜びを実感するための算数教育の在り方～個別最適な学びを目指した授業実践を通して～	算数科

◆優良賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
大井第二小	中村 美香	読み困難児への読み指導に関する実践的研究～通級指導における「多層指導モデルMIN」を効果的に活用した指導実践～	特別支援
恵那西中	杉浦 栄美	自己の内面を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成～仲間の多様な感じ方・考え方を受け入れることを通して～	特別の教科・道徳
恵那西中	林 祥太	よりよい生活の実現を追求できる生徒の育成を目指して～D情報の技術 計測・制御のプログラミングによる問題解決の実践～	技術科
明智中	明智中研究推進委員会	仲間と語り合い確かな力を身に付ける生徒の育成を目指して～主体的な追究活動と学びの状況を自覚するための自己評価に着目して～	研究推進

◆優良賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
武並小	奥村 莉圭	仲間と共に「読むこと」を楽しむ1年生国語科の実践～音読・動作化などの言語活動とICTの有効活用を通して～	国語科
大井第二小	宇土 貴文	自信をもって自分の考えを仲間に伝えられる児童の育成～教材の工夫・ICTの活用を通して～	生活科
上矢作小	石田 楓	理科の見方・考え方を意識的に働き、自然を追究する理科学習～問題を科学的に解決するための資質・能力の育成を目指して～	理科
岩邑中	山田 瑞貴	中学校理科における科学概念の形成を支援する授業デザイン～“地球”領域と“エネルギー”領域における視覚化・思考の表出の工夫～	理科

今年度の教育実践論文の傾向

新人の部…22点 一般の部…16点 合計38点（※昨年度は48点）

今年度は、一般の部16点、新人の部22点、学校別では小学校25点、中学校13点、合計38点の応募がありました。いずれも、子どもたちに真正面から向き合う先生方の姿が伝わる論文ばかりでした。

主体的・対話的な児童生徒の育成を大切にしながら、授業の積み重ねによって児童生徒のつまずきを分析し、授業改善を行い実践が重ねられています。中には、児童生徒の学びの変容が手に取るようにわかる実践記録、日々の授業の中にすぐに生かせそうな実践や教材提案もありました。

また、専門教科の実践は、研究の柱がしっかりとしていて、これまでの実践を礎として研究を進めていることが分かりました。教育の今日の課題を意識した論文もあり、日々の教育活動の中で、参考になることや共有しておきたい知識がたくさん書かれていました。